

月刊 共有船

鉄道・運輸機構共有
貨物船・旅客船

(一社)船舶整備共有船主協会機関誌

- <海事局内航課>
「内航海運の活性化に向けた今後の方向性検討会」
早急に着手すべき取組を公表
- <海事局安全政策課>
船舶事故防止アプリの安全性について実証実験開始
- 紹介 父島~母島に貨客船「ははじま丸」が就航
- <海事局>
「海事レポート2016 地球から世界へ」を発行
◇海事産業の生産性革命
◇海運・造船を支える人材の確保・育成
◇国内旅客船と内航海運の現状
- SES開発の歴史と検証(24)
発電機による誘導電動機回転数制御
- <エコシップモーダルシフト事業>
優良事業者20社に国交省海事局長表彰
- ◇暫定措置事業 28年5月期 建造等申請 認定状況
- ◇29年「海フェスタ」開催地、神戸に決定
- ◇内航燃料油価格(H28年4~6月)

ははじま丸



9
2016

船主/伊豆諸島開発株式会社



株式会社 渡辺造船所

長崎市土井首町509-13

TEL. 095-878-4515

FAX. 095-878-9756

URL <http://www.watanabe-zousen.co.jp>



〈連載(296)〉

友ヶ島水道でのシップウォッチング



大阪府立大学21世紀科学研究機構
特認教授 池田 良穂

柳原良平画伯の著書に、横浜港が見える高台に居を構えているという記述があった。まさに船好きにとっては羨望の居であり、筆者も、港や船の見える家が欲しかった。しかし、勤務する大学が大阪の堺市の内陸部とあって、これはなかなか実現しなかった。それでも30歳目前には、一時、堺の旧港の近くのマンションに移り住み、その7階の部屋から少しだけ海が見えたものの、行きかう船を見ることはできなかったので溜まるフラストレーション解消のために、近くのヨットハーバーで小さな中古クルーザーを手に入れ、休みには大阪湾へとセーリングを楽しみながら、行きかう船のシップウォッチングをした。

このマンションは臨海部の化学コンビナートが近く、風向きによっては異臭が漂うので、10年近く住んだ後、勤務先の近くのマンションに転居した。その代わりに、大阪湾の入口の「友ヶ島水道」が見える和歌山の加太の山の上に小さな別荘を構えた。かれこれ25年近くなるが、今でも、ここで週末には船を眺めながら原稿書きや論文作りをしている。この原稿を書いている間に

も、LNG船やPCCが通過するのが見えた。この山荘のベランダから、500mmのレンズで大阪湾に出入りする200m以上の船はファインダーいっぱいにつまえることができるが、よほどクリアな日でなければ、双眼鏡ではよく見えても、なかなかすっきりとしたよい写真にはならない。その目安が淡路島の南に浮かぶ沼島で、この島がくっきり見える日には、結構、よい写真が撮れる。

さて、加太はタイ漁で有名な漁港があり、その一画から、友ヶ島に渡る連絡船がでている。かつては、南海電鉄が友ヶ島のレジャー開発をしていて、子会社の南汽観光がかなり大きな客船を就航させていたが、南海電鉄は2003年にレジャー開発から撤退して、この友ヶ島航路も廃止になりかけた。しかし、有限会社友ヶ島汽船が設立されて、小型客船での定期運航を継続。が、2006年に同社も廃業した結果、友ヶ島航路も消滅の危機に立たされた。だが、加太漁業組合がこの航路を引き継ぎ、友ヶ島汽船株式会社として2007年から運航を再開している。

実は友ヶ島という島はなく、大阪湾口に浮かぶ4つの島の総称が友ヶ島とのこと。その中で最も大きい沖ノ島に、かつては宿泊施設が夏季限定で3軒あったが、今では1軒だけとなっている。キャンプ場等が整備されていて、そこを利用する人も多いし、釣り人にとってはよいスポットのようで、冬でも定期船が運航されている。

島の観光資源としては、明治時代に作られたという砲台が朽ち果てた状態ではあるものの残っているのと、燈台は現役で活躍しており、ほかには自然が豊かで、シカやクジャクなどもある。この島が、意外にも最近、人気が出てきているという。廃墟の雰囲気「天空の島ラピュタ」のシーンに似ているとの口コミやテレビでの紹介が人気に火をつけたとのこと。

また、私たち船ファンにとっては、大阪湾に入る船を間近に見られるシップウォッチングのベストプレイスでもある。午前中は順光で、特に大阪湾に入る船は、右側航行なので、すぐ近くを航行する姿を間近に見ることができる。ただし昼をすぎると逆光になると、南下する船は航路がやや遠くて、なかなかよい写真にならないのが難点だ。

さて、上海を出港した「MSC Lirica」が、8月1日の13時に神戸港に入ることになっており、このスケジュールからすると、10時頃に友ヶ島水道を通過するのではないかと予測していた。当初は加太の別荘からの撮影を考えていたが、朝起きてみると、天気はよいが、もやっていて沼島も見えない。そこで、友ヶ島まで船で渡って、燈台の近くから同船を撮影することにした。

友ヶ島に向かう友ヶ島汽船の始発は9時発の便で、前日の日曜日に乗り場を覗いた時には、積み残しができるほどのお客で混んでいた。出港一時間前の8時に乗り場に到着して、切符売り場の前で並んだ。船賃は、往復2000円。船は、神原海洋開発(現ツネイシクラフト&ファシリテーズ)建造の19総トン型の「ともがしま」で、最近、もう一隻「らびゅた」という船が増えた。

加太港で出港を待ちながら、スマホでAIS情報を確認すると、「MSC Lirica」は紀淡海峡の入口にまで来ており、船速は16ノット。これだと、友ヶ島水道は10時くらいの通過になりそう。9時発の「ともがしま」が20分で友ヶ島に到着するので、撮影ポイントの燈台付近には9時45分には着けるとよんだ。棧橋からはでこぼこの細い山道だが、距離はだいたい1kmなので、なんとか間に合いそう。



加太の友ヶ島汽船の乗り場

「ともがしま」は、予定通りに友ヶ島に着き、撮影ポイントに向かった。第2砲台跡に到着したのは9時40分で、AISで確かめるとそろそろ友ヶ島水道の入口に差し掛かっていた。9時50分、純白の船体が目の前に登場し、あっという間に大阪湾へ消えていった。



ともがしま



「らびゆた」

このように、シップウォッチングを趣味とする者にとっては、友ヶ島は最高のポイントなので、同好の士はぜひ訪れてみていただきたい。航路廃止の危機の中で、航路存続に尽力された方々には頭が下がるし、観光地としての見直しが図られて活況を呈しているのも嬉しい。2隻目が導入されたのは確実に友ヶ島への観光客が増えているのであろう。

また加太には、人形供養で有名な淡島神社、海水浴場、そして加太の鯛などを堪能できる料理旅館などもあり、観光地としても魅力のある場所である。南海電車の加太線の終点が加太駅で、交通の便も悪くない。



第2砲台跡から友ヶ島水道の入口を望む



第2砲台跡(左)と芝生(大阪湾側を望む)



大阪湾に入るバルクキャリア「たちばな」



コンテナ船「SITC Guangxi」



南下するコンテナ船「EVER UNIFIC」



友が島水道を通過して神戸へ向かう「MSC Lirica」を沖ノ島の砲台跡でキャッチ。



「MSC Lirica」

